

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	羽島市	学校名	桑原学園		
校長名	小川和彦	対象学年	3年・5年・1～9年	人数	17名・20名・165名
活動名	桑原大すき（3年） アイガモ農法挑戦（5年） 地域ふれあい活動（1～6年，7年） 双樹園交流（1～6年），共に生きる（7～9年）	時間数	3年生（30時間） 5年生（24時間） 1～6年（4時間） 1～6年（15時間），7～9年（6時間）	継続年数	19年 19年 20年 25年，15年
題材	①自然環境（動物） [乳牛とのふれあい体験] ②歴史（史跡・その他） [桑原町探検（寺・神社・城址・河川関係）] ③文化（風習） [行灯作り・昔の玩具（大根鉄砲）作り・餅つき体験・五平餅作り・青田刈り・注連縄づくり] ④地場産業（農業・その他） [田植え・稲刈り・里芋づくり] ⑤地域との積極的な関わりをつくる活動 [双樹園交流・福祉体験・町内福祉施設訪問・町内行事へのボランティア参加] ⑥その他（地産地消） [桑原ふるさとけんちん汁の準備（里芋の栽培，大根・人参水洗い，大根・人参・里芋切り）]				
複数年継続するための工夫改善	・前年度の記録から，転入職員が，課題解決への方向を描き，自ら現場や地域の人々と積極的にかかわることで，活動に込められた願いや価値を十分に感じながら，担当者としての工夫を盛り込み活動を進める。 ・学年の発達段階に応じた地域を素材にした活動を計画し，教科，道徳，総合的な学習とを横断的に関わらせ，事前，事中，事後の繋がり，6年間，後期課程への繋がりを大切にして実践する。それにより地域の人々や自然，産業について，児童・生徒が，継続的，発展的に関わり学びを深めていけるようにする。地域ふれあい活動では，今年度は後期課程7年生との関わりを考えた。 ・桑原町コミュニティセンターを始めとする諸団体と連絡を密にとり，事前の活動に工夫改善を盛り込み，ねらいの共有化を図った。				

1 ねらい 桑原町の自然・文化・産業を学び，桑原の一員としての自覚を誇りを育て（1～6年），ボランティア活動への参加を通して，様々な立場の人への理解を深め共に生きる態度を培う。（7～9年）

2 活動の概要

テーマ	学年	課題	学習活動	児童生徒の様子
桑原大好き	3年	桑原町の史跡探訪を通して町の歴史に興味関心をもち，さらに詳しく調べまとめることとふるさと桑原を愛し大切にしようとする	・桑原町の八神城址，金宝寺，大須観音を探訪，町の歴史を知る。 ・地域の人と触れ合う活動（行灯作り・大根鉄砲作り 他）	桑原町の史跡の事前学習から抱いた疑問点を青少年育成推進委員に話を聞くことで明らかにし，実際の探訪に繋ぎ，理解を深める。その成果を分かりやすく伝えたりした。
アイガモ農法挑戦	5年	米作りの活動を通して，稲の生育や農法の問題を知り，米作りへの考えを深めることができる。	・田植え・アイガモ放鳥・稲刈りをする。収穫したアイガモ米を使い五平餅を作る。	アイガモ米づくりに取り組んでみる講師の方の話を熱心に聞き，田植えや放鳥，稲刈りに進んで取り組んでいた。また地域の方との交流も積極的であった。
地域ふれあい活動	1年2年	乳牛の生育の様子を知り，命の尊さを感じるとともに，牛乳を大切に飲もうとする気持ちをもつことができる。	・牛の生育と生乳について知り，仔牛の心音を聞いたり，哺乳体験を行った。 ・母牛の搾乳体験を行った。	牛の心音を聞き，温かさに触れることで，命の尊さを感じ，搾乳できるまでの世話や牛の状態を知ること，身近な牛乳を大切に飲みたいと思えた。
	3年	小刀やのこぎりを使って竹を細工し大根鉄砲を作ることができる。	・大根鉄砲の作り方を，町の老人会の方から学び，親子で制作，飛ばして改善する。	小刀の使い方や事前に関工で学習し，自分で竹を削ろうと一生懸命な姿がみられた。手作り玩具で遊び方を工夫する姿がみられた。
	4年	桑原町で育ったもち米を用い，餅つき体験を行い昔からの風習を学ぶ	・ボーツ愛好会の協力を得て餅つきを行い，手作りの餅を味わう。	ボーツ愛好会の協力を得て餅つきを行うことができた。次年度は米作りを行うことに意欲を抱いた。
	5年	収穫したアイガモ米と，桑原町で収穫されたもち米とで，五平餅を作り，伝統的な郷土食を味わう。	・五平餅の由来の話を聞く。 ・もち米とアイガモ米を合わせて炊いた米をすりこぎでつき，町の婦人部の方から教えてもらいながら五平餅をつくる。	五平餅が中部地方に伝わる郷土食，米が貴重であった時代に祭りや祝いの場で食べられたことを知り，丁寧に作ることができた。
	6年	夏に青田刈りを行い藁を乾燥させる。飾りに用いる海老を作り注連縄の由来を知る。藁で縄織りしてしめ飾りを作り，伝統文化を学ぶ。	・事前飾りの海老を青少年育成推進委員から学んで作り，藁での縄織りや動画で学習，青少年育成推進委員の方に教えてもらいながら注連縄をつくる	青田刈り，飾りの海老作り，縄織り方を事前学習，制作集中して取り組み，注連縄の由来を学びながら仕上げた。後期課程への進路志向や年の門出にふさわしい注連縄ができたことを喜び，6年間の学習を振り返りながら，地域の人々に支えられて今があることに感謝の思いを強くした。
	3～7年	桑原町で収穫された野菜を使ったけんちん汁作り，進んで携わることができる。	・34年大根，人参の水切り，5年は老人クラブ女性部の方と大根切り，6年人参切り，7年里芋切り	収穫された野菜の新鮮さや見事に桑原の自然の恵みの豊かさを実感，お世話になる名人に食べてもらおうと汁作りに貢献できたことに充実感を得る姿があった。
双樹園交流	1～6年	交流を通して障害のある方について正しく理解し，共に協力して生活していくとする態度を育てる。	・年2回学級毎に交流会を行う。 ・双樹園コンサートへの出演（4年）	初回の反省を活かし2回目の交流をよりよいものにしてしよう，ゲームや給食等，一緒に楽しむことを大切にして会を運営できた。
高齢者疑似体験	4，9年	高齢者疑似体験を通し，高齢者との関わりについて考えを深めようとする。	・高齢者疑似体験セットを装着し，普段の生活との違いが分かる。	高齢者体験では身体の不自由さを実感することができ，自分ができることは何かを考え，敬老会ボランティアに生かす。
ボランティア活動	7～9年	町民運動会，敬老会，町文化祭のボランティア活動に参加し，様々な立場の人への理解を深め自分ができることを考え実践することができる。	・桑原町の様々な行事にボランティアとして参加したり，福祉施設への訪問を行ったりする。	高齢者疑似体験で学んだことを生かし，姿勢を低くして応対することができた。暑中見舞いや年賀状を楽しみにしてみることが分かって嬉しかった。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

ふるさと桑原の自然・文化・産業（農業・酪農）に直接触れることができるよう，六年間の発達段階を考慮し，年間を通じて学年毎に諸団体と連携を図りながら活動を進めた。桑原町コミュニティセンターが連携の拠点となり，「今年度こんな工夫を加え，子どもたちのために素晴らしい体験を」と，協力を惜しまない支えや新たな改善により，その年度ならではの活動が実施される。11月の「地域ふれあい活動」では，地域を始め11団体61余名に協力を頂き活動を行った。お世話になる方々，桑原で収穫された野菜を用いた保護者がつくる汁が振る舞われる。昨年度引き続き，野菜切りは，3，4年生，野菜切りは，5，6年生，今年度は7年生も里芋切りに携わることで，活動を支えたの思いを抱くことができた。総合的な学習の発表の場として2月の町文化祭では，一年を通して学んだ成果を展示発表し，家庭や地域へ発信していく予定である。桑原学園後期課程との繋がりも考え，教科や総合的な学習とも関わらせ地域の一員としてできることを積極的に発信していきたい。

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

「桑原町は水害に苦しんでいたんだ」「昔の米作りは大変だった」「難しかったけれど教えてもらえたから上手くできた」「桑原は地域の人がとても温かく優しい地域だと改めて感じる事ができた。これからは地域の人との関わりを大切にして生活したい」6年間の学びを通して，地域の温かさ，素晴らしい支えにふれた子どもたち。思うように活動が進まない時にも，自ら考えて質問したり，やり直したりして最後まで粘り強く取り組めたことに喜びを感じる事ができた。地域の方の支えがあったからこそできたことに感謝の念を抱きつつ，前期課程，後期課程でのねらいの明確化と，なめらかな連続を図ることで，ふるさと桑原のよさを実感し，地域で生き，地域を誇ることのできる，桑原学園を胸を張って巣立っていきける地域社会人を確かに育てていきたい。

